

※ポリシーとの関連性

経済学の基礎的・専門的知識を学びながら、経済社会問題を考察する力を養成する

[一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済学特別講義Ⅰ（経済理論及び政策）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	－櫻澤 誠	2 年	各回の授業終了後（休憩時間）に教室で受け付けます。	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	沖縄現代史（特に経済構想、観光政策）について検討していく。授業は講義およびそれをふまえた受講生による作業回・発表回で構成している。	本講義を通して、実社会でのさまざまな判断を行う際にも重要なスキルとなる、現代史についての客観的な理解ができるようになることを受講生には期待したい。
	到達目標 ・沖縄現代史（特に経済構想、観光政策）に関する文献・史資料の内容や意図を正確に読み取り、客観的に検討することができる。 ・具体的事例を取り上げ、図書館等で調査を行い、集めた情報を用いて、自らの議論を組み立てることができる。	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の概要と導入	参考文献を事前に読む
	2	沖縄現代史 講義1	参考文献を事前に読む
	3	沖縄現代史 講義2	参考文献を事前に読む
	4	沖縄現代史 講義3	参考文献を事前に読む
	5	沖縄現代史 講義4	参考文献を事前に読む
	6	戦後沖縄経済構想史 講義1	参考文献を事前に読む
	7	戦後沖縄経済構想史 講義2	参考文献を事前に読む
	8	戦後沖縄経済構想史 作業回1	参考文献を事前に読む
	9	戦後沖縄経済構想史 作業回2	参考文献を事前に読む
	10	戦後沖縄経済構想史 発表回	参考文献を事前に読む
	11	戦後沖縄観光政策史 講義1	参考文献を事前に読む
	12	戦後沖縄観光政策史 講義2	参考文献を事前に読む
	13	戦後沖縄観光政策史 作業回1	参考文献を事前に読む
	14	戦後沖縄観光政策史 作業回2	参考文献を事前に読む
	15	戦後沖縄観光政策史 発表回、授業全体のまとめ	参考文献を事前に読む
	16	全体の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など （参考文献）櫻澤誠『沖縄現代史』中公新書、2015年		
学びの手立て 集中講義を受講する前に、参考文献（『沖縄現代史』）を必ず読んでおくこと。また、集中講義の終了直後に短期間で最終レポートをまとめることが必要となる。			
評価 授業への取り組み〔作業・発表、ディスカッションへの参加など〕（50%） 最終レポート（50%）			

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
	「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」「日本経済論Ⅰ・Ⅱ」

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境政策特別講義Ⅰ（開発と環境）	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-原 美登里	3 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	身近な環境保全について考えるために、水環境を取り上げる。その際、自然地理学の基本的な見方・考え方を理解するとともに、「水」を取り巻く自然環境や社会・経済的環境における諸問題を通して、水の現状を把握・理解し、今後われわれが水環境や水問題にどう対処して行くかを考える契機とする。さらに、水にまつわる文化についても、考える一助となることを目指す。	水環境を中心に講義を進めます。みなさんもぜひ水環境を含めた地球・地域の環境問題に興味を持ち、積極的に情報収集を行いましょう。まずは、身近な水環境へ赴いてみてください。本講義はアクティブラーニングを実践します。自ら考え、行動することを望みます。
準備	到達目標	
	本講義の到達目標は以下の通りである。1. 身近な水環境についての基礎知識を身につけることができる。2. 気象に関する基礎知識を身につけることができる。3. 水環境を通した環境保全について理解することができる。4. 身近な地域の水環境について、自ら調べることができる。これらはレポートや試験から到達度をみる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・水文学とは	講義で提示された参考書を閲覧する
	2	水の惑星＝地球（水の総量・分布）	講義に提示された図表を理解する
	3	気象の基礎知識	注意報・警報について調べる
	4	気象に関する注意報・警報に関するディスカッション	地域の注意報・警報を理解する
	5	気象のメカニズム	現住地のハザードマップを準備する
	6	ハザードマップに関するグループディスカッション	災害時の行動計画をたてる
	7	大気大循環を理解する	大気大循環を理解する
	8	水収支を学ぶ	水収支を理解する
	9	水循環を学ぶ	水循環を理解する
	10	水道に関する基礎知識	沖縄県の水道について調べる
	11	日本における水道システム	本州の水道について調べる
	12	流域変更と水移動（身近な水と生活用水）	身近な水道について調べる
	13	現住地・出身地における水道に関するグループディスカッション	身近な水辺景観の写真を準備する
実践	14	水辺景観を知る	身近な水環境を理解する
	15	沖縄の水と文化	
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など		
学びの手立て	①テキストは使用せず、パワーポイントを中心に、必要に応じてプリントや写真を用いて授業を進めます。		
	②できるだけ、日本の島々の位置や大きさが把握できる地図を持参して下さい(中学や高等学校で使った地図帳も可)。		
	③各自で準備する資料をもとに、授業を進めます。		
	④⑤⑥		
評価	①集中講義ですので、一日休むと話が理解できなくなります。欠席しないようにしてください。		
	②疑問点は必ずメモしておき、講義の際に積極的に質問・意見を述べてください。		
	③グループディスカッションや作業を伴う授業を実施することがあります。積極的に参加してください。		
	④授業開始時に作業の説明等を実施しますので、遅刻はしないようにしてください。		
	⑤現住地および地元における身近な水（湧水・井戸・水路・河川）について、写真を準備し、歴史や概要などについて調べておいてください。		
	⑥講義で学んだことについて、地元での状況等を確認しましょう。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	次のステージ
	本講義を受講して、身近な水資源・水利用・水辺景観などに興味を持って、調べてみましょう。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	会計学特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 聡	2 年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業が毎年公開する有価証券報告書は、過去の活動実績と将来予測をする際に必要なデータの宝庫です。ただ、その分析には一定の知識が必要となります。この講義では、財務諸表に開示されるデータがどこから来て、どこに向かおうとしているのかを知ることを目標とします。	社会に数多くある企業が業界のなかでどのように位置づけられ、将来性があるのかを知ることは、これから社会に出て行く学生の皆さんには必要な知識です。また、この講義で学ぶ分析方法は、卒業論文を作成する際のヒントにもなります。企業を分析する際に必要な手法を厳選し、段階を経て学ぶなかで、就職活動・卒業論文に必要な分析手法を体得してみませんか？
	到達目標	
	本講義は、財務諸表が複式簿記の技術を経て作成されることを知っている学生が、集積された財務データを、業界内での企業の特徴や、強さ・弱さを分析するなかで利用し、将来に向けた戦略を立案できるようになることを目標とします。そのため、分析の途中には、財務諸表から離れる分析が必要になりますが、本講義では、いくつかの分析を通じて、企業の活動成果はすべて財務諸表に集約されること、将来に向けた活動の原資も財務諸表のなかから導き出す必要があることを知り、企業を冷静な目で分析できるようになることが期待されます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	会計学・簿記の概略の予習
	2	業界分析－企業の選択－	業界分析の復習
	3	業界分析－企業が属する業界の特徴－	業界分析の復習
	4	業界分析－業界内での企業の特徴－	業界分析の復習
	5	経営分析－ファイブフォース分析－	経営分析手法の復習
	6	経営分析－P P M分析－	経営分析手法の復習
	7	経営分析－S W O T 分析－	経営分析手法の復習
	8	財務分析－収益性分析－	財務分析手法の復習
	9	財務分析－安全性分析－	財務分析手法の復習
	10	財務分析－成長性分析－	財務分析手法の復習
	11	総括（分析結果の統合－視点の解説－）	統合的視点のまとめ
	12	総括（分析結果の統合－学生サンプルの開示－）	統合的視点のサンプルとの対比
	13	報告の準備（１）学生チームの分析結果の集積	総合的視点の確立
	14	報告の準備（２）学生チームの分析結果の調整	総合的視点の確立
	15	報告の実施（１）学生チームによる研究成果報告	総合的視点の確立
	16	報告の実施（２）研究成果討論・総評（試験代替）	
	テキスト・参考文献・資料など		
	創成社より近刊予定の教材を教科書として使用する予定です。		
	学びの手立て		
	本講義は、分析手法の講義の後、チームでの実践学修を求めることを予定です。そのため、遅刻・欠席が多くなると、共同で作業をするチームのメンバーに迷惑がかかります。受講を希望する学生の皆さんは、原則、遅刻・欠席せず、講義時間内で分析手法を体得するように努めてください。 また、講義時間内で、分析手法を体得できない学生には、質問を受け付けますので、その日の講義内容は、その日のうちに理解するようにしてください。		
	評価		
	評価方法は、講義最終日に実施するチームの共同研究成果報告の内容で行います。本講義の評価には、教員だけでなく、受講者自身の他チームへの感想も、一部加点として反映させたいと考えております。これは、皆さんと同じ立場の学生がどの程度かを知り、今後の学修に生かすことが重要だと考えているからです。その意味でも、皆さんには、毎回の講義への出席が求められます。出席点は、一部平常点として考慮する可能性がありますので、積極的に受講するようにしてください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：財務会計、管理会計、経営戦略論、経営分析、監査論
	本講義で学修した企業分析の基礎体系を関連科目などを通じよりの確な意思決定ができるよう研鑽を積んでください。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	特別支援教育論	春期集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-村越 雄二	3 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本科目では、発達障害等に関する我が国の支援制度その歴史。学校教育における特別支援教育の意義等を踏まえつつ、対象の理解と具体的な教育や連携方法について講義し、グループワークや疑似体験等を実施し、体験的に学んでいきます。	メッセージ 特別支援教育とは、特別支援学校に勤務する教職員や特別支援学級の担任のみの仕事ではありません。通用学級担任を含む全ての教職員が取り組まなければならない教育です。多様な子ども達への教育的な関わりについて学びましょう。
	到達目標 通常の学級にも在籍する発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	子どもの発達と学校教育	シラバスを読んでくる
	2	子どもの発達支援～特別支援教育と関連制度～	講義中に指示する課題①
	3	対象の理解Ⅰ～神経発達症を中心に～	講義中に指示する課題②
	4	対象の理解Ⅱ～視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱を中心に～	講義中に指示する課題③
	5	局限性学習症の理解と支援～疑似体験・グループワーク①学習面の支援を中心に～	講義中に指示する課題④
	6	注意欠如多動症の理解と支援～疑似体験・グループワーク②行動面の支援を中心に～	講義中に指示する課題⑤
	7	自閉スペクトラム症の理解と支援～疑似体験・グループワーク③対人面の支援を中心に～	講義中に指示する課題⑥
	8	生活スキルや感覚や運動面等に支援を要する場合の支援について～疑似体験等～	講義中に指示する課題⑦
学びの実践	9	就学支援並びに義務教育段階における段階的な支援体制について	講義中に指示する課題⑧
	10	校内での支援体制～通級による指導並びに特別支援学級（自立活動）の指導を中心に～	講義中に指示する課題⑨
	11	個別の指導計画及び個別の教育支援計画	講義中に指示する課題⑩
	12	特別支援コーディネーターの役割と地域連携	講義中に指示する課題⑪
	13	家族との連携と保護者支援	講義中に指示する課題⑫
	14	貧困問題や母国語の違う子ども達の理解と支援	講義中に指示する課題⑬
	15	まとめと振り返り～事例を通した支援の実際～	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など （テキスト）授業ごとに資料を配布する。 （参考書）「発達と障害を考える本」1～4（株）ミネルヴァ書房		
学びの実践	学びの手立て ①「履修の心得え」教職を目指す者として、積極的な姿勢で授業に臨むこと。また遅刻・欠席がないよう努めること。②「学びを深めるために」講義で実施するグループディスカッション等では、自身の考え等を積極的に発言すること。また講義を受講し内容を理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習を必ず行うこと。		
	評価 講義への参加態度（30％）、課題の提出状況・達成度（30％）、期末試験（40％）から総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、発達障害等を持つ幼児・児童・生徒に対する理解と対応に関する内容で有り、学校教育に関する科目・講義には全て関連がある。
-------	---